

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	放課後等デイサービスもぐすた			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日		～	2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	1人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～	2026年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	2人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 2月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者への情報提供、サポートをしっかりと行っている。	・日々の活動内容や子どもの様子を写真添えてお伝えしている。 ・家庭への相談支援を通して、本児の支援の方向性をお伝えしたりや保護者の相談を受け止めたりする姿勢を大切にしている。	・保護者のニーズに応じた情報提供（就学・発達・関わり方など）を定期的に行う。 ・保護者が相談しやすい環境づくりを継続する。 ・家庭と事業所で支援の方向性を共有できるよう、連携をより意識した発信を行う。
2	子どもの特性に合った支援活動を考えている。	・子どもの発達段階や特性、または保護者の要望に合わせ、無理のない活動内容や関わり方を工夫している。 ・興味・関心を取り入れた遊びや活動を通して、意識的に参加できる環境を整えている。 ・小集団や個別対応を使い分け、安心して過ごせる支援を行っている。	・支援への振り返りを職員間で共有し、より適切な支援方法を検討する。 ・活動内容の幅を広げ、成功体験や経験を増やす機会をつくる。 ・成長や変化を丁寧に捉え、次の支援につなげていく。
3	小集団・個別での療育を行っている。	・子どもが安心して過ごせる環境作り、年間カリキュラムを作成し段階を踏んで活動に参加しやすいようにしている。	・子どもの成功体験を増やすため、スモールステップの設定を心掛けている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や相談支援事業所など関係機関との連携が十分に取れていない。	・日常業務が中心となり、関係機関との情報共有の時間が確保しにくい。 ・学校の先生方との面談時間の調整が難しい。	・定期的な情報共有や連絡の機会を意識的に設ける。 ・保育所等訪問支援を積極的に取り入れ、保育所等と連携を進める。
2	地域活動・交流の活動が積極的に行えていない。	・人員や時間の制約により、外部活動の計画が難しい。 ・地域資源や交流先についての情報が不足している。	・無理のない範囲で地域との関わりを持てる活動を検討する。 ・地域資源について情報収集を行い、活用の可能性を探る。
3	記録業務に時間を取られ、本来の支援準備が十分に確保できない。	・記録業務に時間がかかり、支援準備の時間が不足している。 ・教材作成や環境整備が後回しになりがちになっている。	・教材ストックを増やしていく。 ・記録の書き方を統一する。 ・記録の効率化について検討を重ね、より良い形となるよう日々見直しを行っていく。 ・記録の効率化のため、ICT導入も検討する。